











## 滿鐵首腦部の更迭で 政府と軍部の確執

江口副裁の罷免と  
内田總裁の辭表提出

政府の暴壓的手段によつて江口副裁は、満鐵副總裁罷免せられし爲、同氏と深い因果關係をもつ内田總裁は直ちに辭表を提出し相次いで理事首藤正壽氏、木村銳氏、伍堂卓雄氏も辭任するに至つた。この爲に果然軍部内に更迭反対の聲高まり、中にも満洲政策遂行上同總裁と完全な意見の一致を見て着々その實行に歩みをうつしてゐた關東軍は、この満洲に於ける重大なる時局に際し單に黨略的立場から總裁を選ばずを不可とし、國策的見地より強硬なる反対意見を具陳し來り海軍又陸軍を支持して一層部内の意見を強硬ならしめた。

茲に於て荒木陸相及大隅海相は、交々犬養首相を訪ね軍部内の意見を陳開してその考慮を求め、一方内田總裁に信任を切望した。同總裁が辭表を繳回するを否ひ、彼自身の自由意志にありと雖も、彼が昨年三月江口氏の入社人事署長

## は先をうろへて ロスサンゼルスの戦線へ!!!

満洲國々務院に  
日本人採用さる

満洲國々務院に  
日本人採用さる

満洲國々務院に  
日本人採用さる

同總裁の辭任は既定の事實と見

日本プロレタリア文化聯盟を主

動的具體化を見る書。

## 共産黨再建運動へ 大檢舉の鐵槌降る

左翼作家連一網打盡  
藏原の檢舉により暴露

無産者の娘さん  
大半は女給に

女學校出の女中進出

女工の仕事が減つたら  
女學校當局の間で大きな問題

最近都巿無產者地帶の娘さんが  
小學校を卒業すると間もなく女

給になる者が多い爲市當局及關

係小學校當局の間で女中とな

つてゐる。その原因は近時

女學校出の娘さん達で女中とな

つてゐる。その原因は近時

女學校出の娘さん達で女中とな

日本代表選手の内澤は現在の露地上四十五名の人事決定發表したがその中六名は日本人で左記の通りである

法務局長官 松本 伸

民政部総務司長 中野 純一

財政部税務司長 澤田 松治

交通部鐵道司長 森田 成行

機務省秘書長 上野 誠

人事署長 高野泰太夫

満洲國々務院は去る四月二十六日

十九名の人事決定發表したがその中六名

は日本人で左記の通りである

（演劇同盟）大川和信、平田義

江、吉田稔、貴司山治、中條百

合子（以上作家同盟）波多野一郎

小野宮吉、生江健次、村山知義

（



## 鶴村録 論集

### 第十七回

「いろ／＼その節は有難かつた」

「何」

「しかし先生、道中氣をつけねばなりませんなあ、何といつても敵持だ」

「隱してをらぬ事柄故、貴公が

知つてゐても不思議はない」

勝馬はそれつきりで何もいはな

番につく足軽が、何といたした  
一時は脱走と決心したが、  
廻り合せか、來る日も來る日も  
一方ならぬ故の者ばかりなの

で、貴公も知つてゐる箱根番所  
の一件、あの時連て行つた六人  
の足軽が、交り合つて番について  
ゐるのだが、勝馬が脱走すれば

番の者は重い咎で或は命を失ふ  
かも知れぬ、それを思ふと迂闊

に脱走は出来なかつた、それに  
また足軽一統がながくよくし

てくれるの、情においても迷

惑をかけんに忍びなかつた、さ

ういふ次第だから悪からず思つ  
てくれ」

いやわかり申したさう承れ  
ば先生の氣持はよくわかつた、たゞ  
それはそれでよひが、先生は九

州へ参られて、首になるやうな  
事はまさかござるまいな、もし

その懸念があるならば、今夜に  
でも退散いたさうではござらぬ

いやその心配はない、箱根番  
所一件をご賞美くだされ、たゞ  
ひ何事があつたとか承つてある  
ケ崎にとらせてはならぬと、君  
の仰せがあつたとか承つてある  
る、先づこの命に別條はないら  
しい

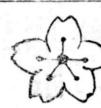
「確にさうでござらうか、大名  
といふものは家来を國へやつて  
よく殺すものだから、拙者は容  
易に安心が出来ませんなあ」

「成るやうにしか成らぬが人の  
一生だ、どう成つても、所詮、  
心一つの考え方だ」

「では、先生は途中から梵天國  
へ逃げろと貴公すゝめるのか」

「すゝめはいたさぬが、その氣  
があつたらよろしくお手傳ひい  
たす料簡でござる」

「心入れは誠に有難い」



日本薬局  
タバチングエラ二  
電話二一六七四五五  
クスリは

Yamato Kinjō  
CIRURGIÃO DENTISTA  
Condessa São Joaquim, 26  
Esquina da Rua Conde São Joaquim  
Telephone, 7-3384 São Paulo

医科歯  
戸山城金  
番六二番キヨシキ・ンサ・ソアンドコ市原  
四八三三・七 話電

あすは敵討に發足の吉日と、思  
る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。  
生れつきとされてゐた元助であ  
る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
非力で病弱で、武士らしくない  
生れつきとされてゐた元助であ  
る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへた五月一日に、思  
はぬ變事が起つた爲、發足ど  
ろではなくたつ事はいふまで  
らねはなるまい。

用

生

れ

つ

さ

れ

た

る、國窮民お救ひ方に廻つて、  
意をとゝのへ